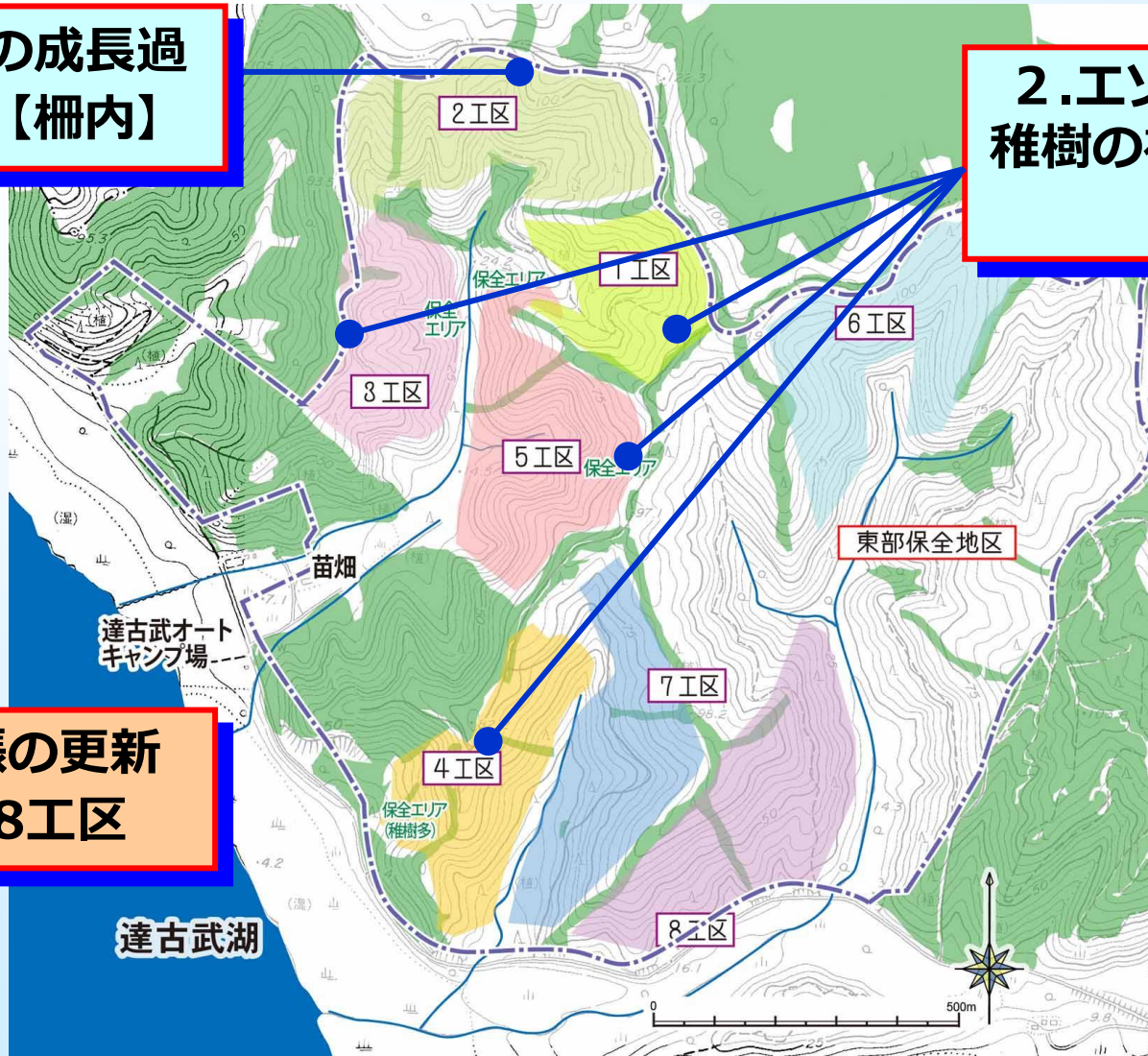


達古武地域自然再生事業の実施状況について

■今年度の調査について

1. 植栽木の成長過程の追跡【柵内】

2. エゾシカによる稚樹の被食状況調査【柵外】



管理台帳の更新
主に7,8工区

達古武地域自然再生事業の実施状況について

■調査結果：【柵内】植栽木の成長過程の追跡①

目的

- ❑ 植栽手法の検証
- ❑ 成長過程の把握⇒保育年数の検討、上層木（カラマツ）の影響の把握

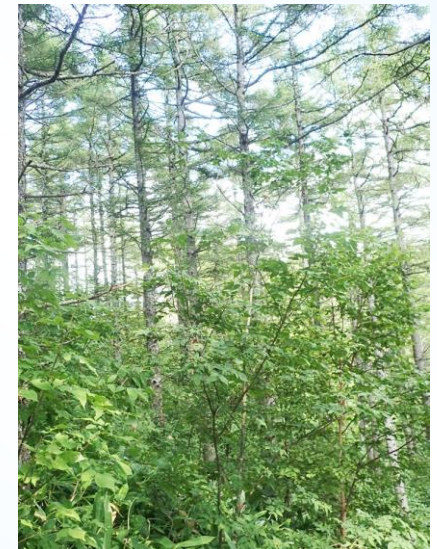
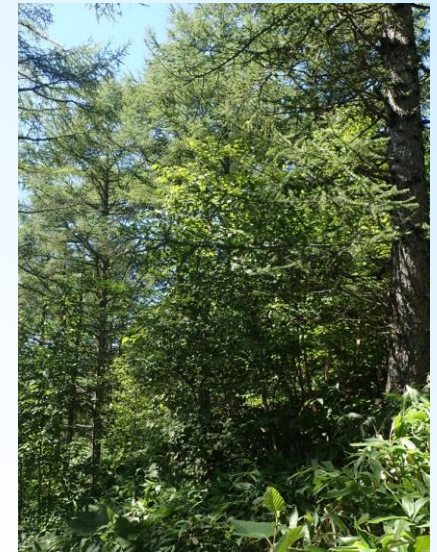
調査手法

- ❑ 2011年・2013年植栽の苗木（防鹿柵内）の樹高・上層環境を測定
- ❑ 樹高約4m以上の個体については、胸高直径も記録

調査植栽木

樹種	生存	枯死	平均樹高 cm	平均直径 cm
アオダモ	44	0	321	2.6
ダケカンバ	55	0	434	4.2
ミズナラ	55	0	285	2.9
計	154	0	348	3.5

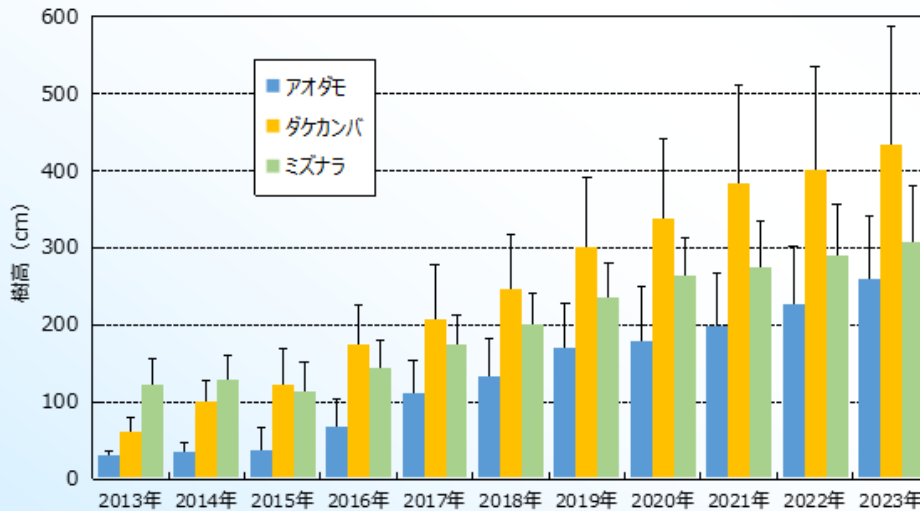
※胸高直径は樹高4cm以上の個体について計測



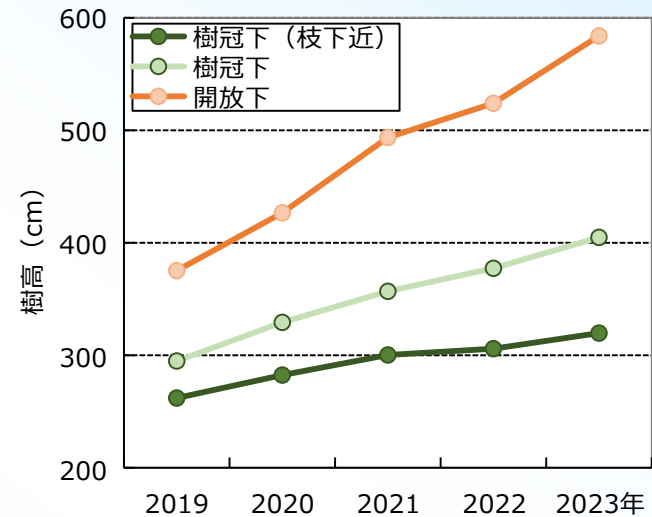
達古武地域自然再生事業の実施状況について

■調査結果：【柵内】植栽木の成長過程の追跡②

2013年植栽木の平均樹高の推移（樹種別）



環境別の平均樹高の推移（ダケカンバ）



調査結果

- ❑ 9割が2m以上に成長（2013年植栽木）。
- ❑ 開放下の5年間成長量は、樹冠下の2倍程度（ダケカンバ）。

方針

- ❑ 樹高成長の推移を踏まえ、柵の取り外し試験を検討。
- ❑ 植栽木の成長に対する上木カラマツの影響を注視。

達古武地域自然再生事業の実施状況について

■調査結果：【柵外】エゾシカによる稚樹の被食状況①

目的

- ❑ 柵外での被食状況の検証
- ❑ シカ捕獲の効果検証

調査手法

- ❑ 6エリアにおいて、柵外に生育する天然更新している稚樹をモニタリング調査
- ❑ 稚樹214本について、生死・樹高・新規食痕（冬季・夏季）の有無を記録



アオダモ食痕

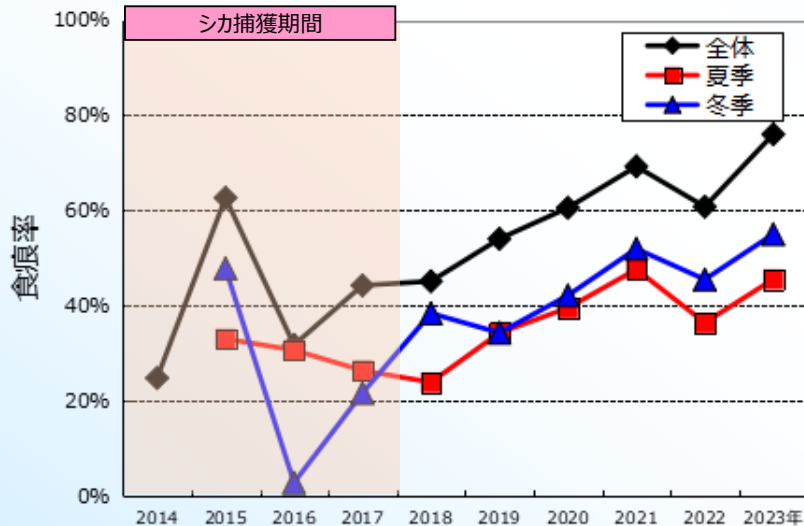


ヤチダモ食痕

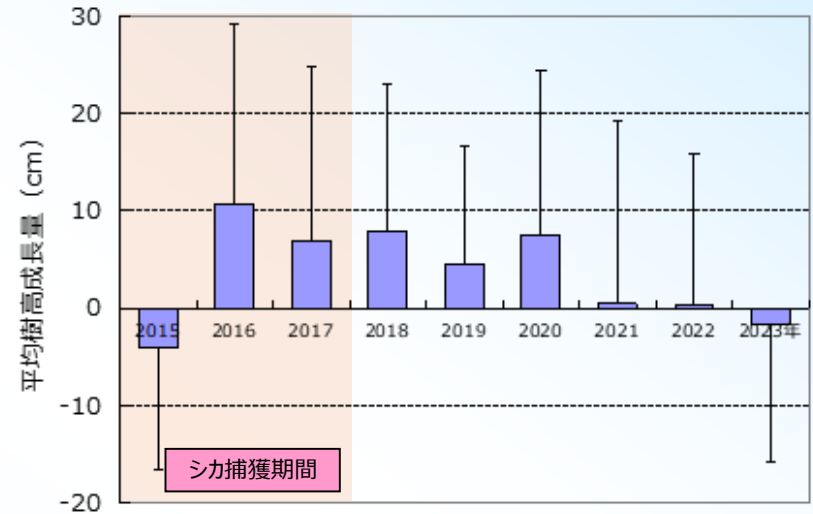
達古武地域自然再生事業の実施状況について

■調査結果：【柵外】エゾシカによる稚樹の被食状況②

新規食痕の割合



樹高成長



調査結果

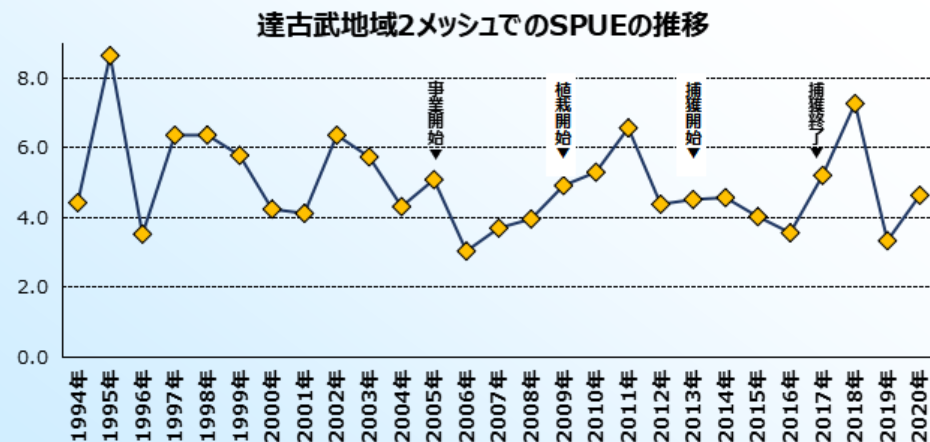
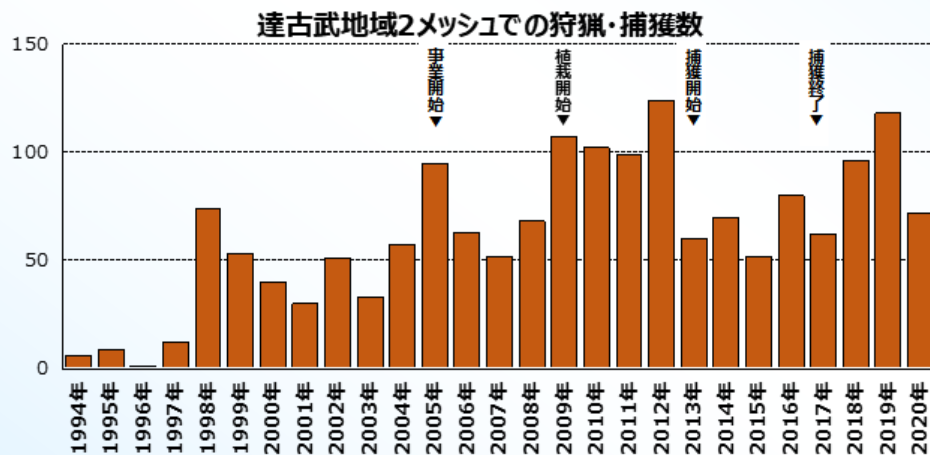
- ❑ 新規食痕は76%で、過去最大値となった。夏季・冬季も上昇。
- ❑ 平均樹高成長は-1.7cmでマイナスに転じたが、プラス成長の稚樹が約4割を占める。

方針

- ❑ 被食の影響が強く見られていることを踏まえ、エゾシカの影響に注視しつつ、対策を検討する。

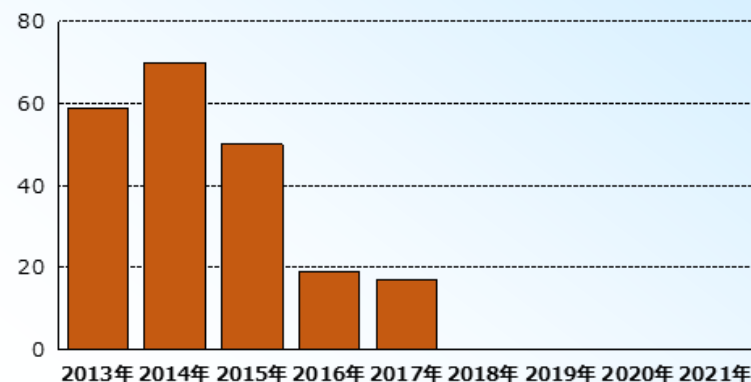
達古武地域自然再生事業の実施状況について

達古武地域のエゾシカの推移



※SPUE: 1日1狩猟者あたりのエゾシカ目撃頭数。4以上で植生に影響出始める。
道総研エネルギー・環境・地質研究所「エゾシカ狩猟情報マップ」に基づく

達古武地域での個体数調整



- 1990年代からエゾシカの個体数が多い地域で、植栽開始時期から特に増加傾向で、狩猟数も増加。
- 2013年からの個体数調整事業により、個体数が減少したが、再び増加傾向にある。